

# 平成23年度 病害虫発生予察注意報 第2号

平成24年1月26日  
栃木県農業環境指導センター

作物名 : 水稻

病害虫名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県南地域 (特に下都賀地域)
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 平成23年11月下旬～12月上旬に再生稲又は畦畔雑草からヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率をエライザ法で検定した。その結果、保毒虫率が県平均7.0%と過去10年で最も高くなった(図1)。
- (2) 上記と同様にウンカ類幼虫の越冬前密度調査を行ったところ、県平均33.0頭/10㎡で、平年比203.7%(平年値16.2頭/10㎡)と高く、過去10年でも2番目に高かった(図1)。
- (3) 地域別では県南地域の保毒虫率が高く、特に下都賀地域(小山市、栃木市)では高まり、要防除水準(越冬世代幼虫の保毒虫率10%)を超える地点が複数見られた(表1、図3)。また、同地域では前年黄熟期の発生株率が要防除水準(黄熟期発生株率10%)を超える地点があり(図2)、40%を超える多発ほ場が見られた。

なお、黄熟期の縞葉枯病発生株率と減収の関係は、例えば発生株率が40%の場合、最大推定減収率は約20%である(関東東山病害虫研究会年報第27集、尾田1980)。

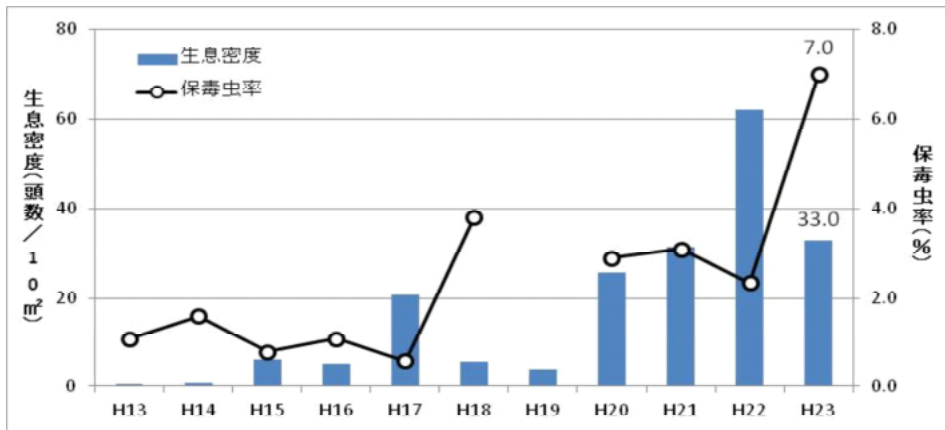


図1 ウンカ類幼虫生息密度及びヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率の推移



国土地理院承認平14総雑第149号

程度	無	散見	少	中・多・甚	
発生株率(%)	0	1未満	1～10	11～20	21以上
記号	○	△	×	●	●

R: 抵抗性品種の作付ほ場

図2 黄熟期の縞葉枯病発生状況  
(平成23年8月下旬～9月上旬 県中南部抜粋)



写真1 縞葉枯病発病株  
(平成23年8月下旬)

表1 ウンカ類幼虫生息密度とヒメトビウンカ越冬世代幼虫保毒虫率

調査地点	H23			H22 保毒虫率 (%)	H21 保毒虫率 (%)
	生息 密度 (頭/10m <sup>2</sup> )	検定 虫数 (頭)	保毒 虫率 (%)		
大田原市戸野内	42	124	0.0	0.0	0.0
大田原市蛭畑	57	124	1.6	0.0	
那須烏山市滝田	3	124	1.6	0.8	0.0
矢板市矢板					0.0
さくら市蒲須坂	15	124	1.6	0.0	0.0
高根沢町花岡	42	124	0.0	0.0	2.6
芳賀町祖母井	0	8	(0.0)	0.0	0.0
真岡市粕田					5.6
真岡市青田	6	110	7.3	4.0	0.0
宇都宮市横山町	0	45	0.0	0.0	2.2
日光市小林	6	8	(0.0)	0.0	
鹿沼市酒野谷	78	124	3.2	1.7	4.0
小山市小葉	12	124	24.2	(0.0)	4.0
小山市下国府塚					14.0
小山市下石塚	30	124	12.9		
小山市石ノ上				3.2	11.0
壬生町助谷	15	124	3.2	0.8	2.0
栃木市惣社町	9	124	10.5	3.2	0.0
栃木市大平町真弓	129	124	24.2	21.8	
栃木市藤岡町富吉	9	124	10.5	2.4	8.0
佐野市堀米町	108	124	4.0	0.0	1.0
足利市上洪垂町				0.0	1.0
平均値	33.0		7.0	2.3	3.1
平年値	16.2				
平年比(%)	203.7				

注：( )は検定虫数10頭未満のため参考値。  
空欄はデータなし。

#### 4 防除対策

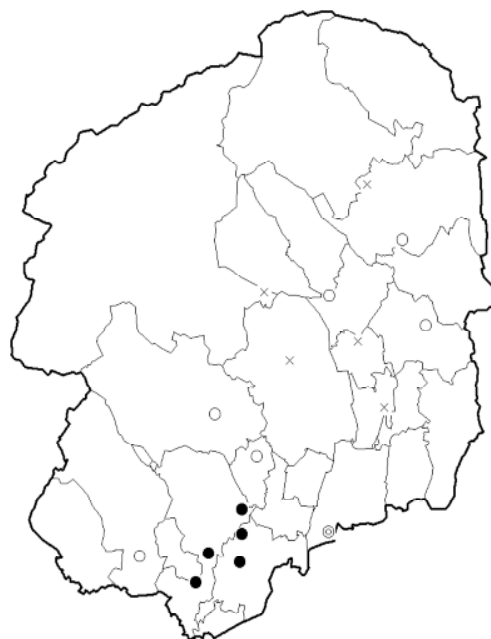
縞葉枯病対策として抵抗性品種（あさひの夢）の作付割合を増やす。近年増加している飼料イネも、抵抗性品種（ホシアオバ、クサホナミ、はまさり等）に切り替える。

要防除水準を超えた地域で縞葉枯病罹病性品種（コシヒカリ、なすひかり等）を作付する場合は、縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの防除を以下の箱施用剤で行う。

ウンカ類幼虫の密度が高く、前年縞葉枯病の発生が見られた地域で罹病性品種を作付する場合も、同様に防除する。

要防除水準を超えた地域で縞葉枯病罹病性品種を作付する場合は、イミダクロブリド箱施用剤（商品名アドマイヤーCR箱粒剤等）、クロチアニジン箱施用剤（商品名ダントツ箱粒剤等）、またはこれらを含む混合箱施用剤を使用する。

フィプロニル箱施用剤（商品名プリンス粒剤等）は、栃木県内で薬剤感受性が低下したヒメトビウンカが確認されているため、県南部（特に下都賀地域）では罹病性品種に使用しない。



国土地理院発行平成14年図説第149号

保毒虫率(%)	0	0.1~0.9	1~4.9	5~9.9	10以上
記号	x				

図3 イネ縞葉枯病保毒虫率の各地点の状況

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

http://www.jppn.ne.jp/tochigi/